

平行在来線問題で交流図る

水戸鉄関労が視察学習会



国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENVビル2F
029-221-4008
発行責任者 塚原良雄
編集責任者 坂本公則

2015年3月14日、金沢から長野間の北陸新幹線が開業し、その一方で分離された並行在来線は第三セクター化されました。(直江津〜妙高高原)
国労はこれまで、政策提言「並行在来線の維持活性化に向けて」を发表し、2013年3月には「北陸新

幹線と並行在来線問題を考えるシンポジウム」を開催、国民の交通権を保障する立場から並行在来線の基本的役割を重視、国民の足を守り活性化させ、引き続き国への要請をはじめ、地域住民や市民団体と一体となり、さらに運動を強化していく必要があります。

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！

点検プロジェクト会議

5月19日、第4回職場総点検プロジェクト会議を地方本部で開催しました。

交渉経過として、①新規採用者配属についての勝田車両センター内の入換車両の脱線について報告し、議題では、常磐線の不通区間について小高、原ノ町間復旧工事及び相馬、駒ヶ嶺間復旧工事の進捗と組合員の状況報告を受けました。また、会社説明以降いわき、原ノ町間の移動ルートについて各職場では、会社より「業務指示はしない、皆さんでルートは決めて下さい」という中で、当初空線量の低い川俣〜飯館ルートを通行し

住民の足を守るの闘い

北陸新幹線の開業に伴い、信越本線豊野〜直江津間が、しなの鉄道と、えちごトキめき鉄道(妙高はねうまライン)に委託がされました。国労としても、並行在来線問題として、地元住民の足を確保する立場から「安全・利便性」を課題とし議論を巻き起こしてきて

いるのが現状です。今回の視察にあたり、新潟地方本部上石委員長をはじめ、田沢書記

望調書に基づく個人面談が始められ、就業規 則や労働 組合の展開もあつて、条件が 示されない中、会社はその3年先をどうするか、個人アンケートに第3希望まで記載させ、結果的には人事が決まっていたから説明がされるといった、労働組合無視の内容でした。

今後、出向者の会議を開催し職場要求をまとめ、会社に提出して改善に努めていく事にしています。

出向会社相手の交渉となる窓口の問題もあり、今後の課題になっています。出向協定に感させられました。